

BCG 予防接種説明書

1. 予防接種の対象となる病気

◆ 結核

結核菌の感染で起こります。

わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ 2 万人を超える患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力(免疫)は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する免疫が弱いので、全身性の結核症や結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

2. BCG ワクチン(生ワクチン)

BCGは牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。

BCGの接種方法は、スタンプ方式で上腕の 2 カ所に押しつけて接種します。それ以外の場所に接種するとケロイドなどの副反応が出る可能性が高くなるので、絶対に避けなければなりません。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10 分程度で乾きます。

3. 副反応

接種後 10 日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は接種後 4 週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後 3 カ月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは、BCG 接種により抵抗力がついた証拠です。自然に治るので、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後 3 カ月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に相談してください。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置をして様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このようなときは医師に相談してください。

また、お子さんが接種前に結核菌に感染している場合は、接種後 10 日以内にコッホ現象(接種局所の発赤・腫脹及び化膿等をきたし、通常 2 週間から 4 週間後に消炎、治癒する一連の反応)が起こることがあります。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、すみやかに市に相談、あるいは医療機関を受診してください。

4. 接種時期

1 歳に至るまでの間

(標準的には、生後 5 カ月から 8 カ月に至るまで)

予防接種を受けるに際し、次のことに十分注意のうえお受けください。

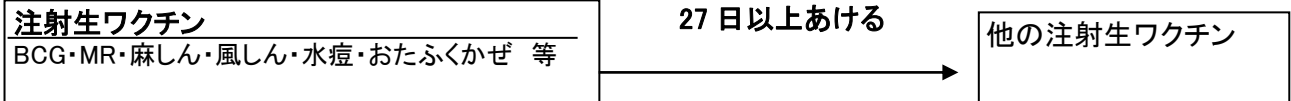
- 予診票は、接種を受けるお子様の当日の健康状態を保護者の方が責任をもってご記入ください。
(各項目の記入漏れがないようご注意ください)
- 説明書及び下記の注意事項をご理解のうえお受けください。

(1) 予防接種を受けられないお子さんは、次のようなお子さんです。

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上の方)。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれている成分で※ アナフィラキシーを起こしたことがある人。
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合。

※アナフィラキシーとは、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。

(2) 予防接種の効果や安全性を確保するため、異なる種類のワクチンを接種する際は、次のことにご留意ください。



上記以外では、異なる種類のワクチン接種間隔は制限なし

(3) 接種後の一般的注意事項は次のとおりです。

- ① 接種当日は過激な運動はさけてください。
- ② 接種後生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめ清潔にたもってください。
- ④ 局所の異常な反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の判断をお受けください。
- ⑤ 接種後、高熱・けいれん・不機嫌等の異常な症状をあらわした場合は速やかに医師の診察を受けてください。

(4) 予防接種による健康被害救済制度

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じたりした場合には、給付を受けられる可能性があります。

※その際には、健康増進課までご相談ください

(健康増進課 電話 0285-22-9526)